

令和8年1月17日朝、31年前の阪神淡路大震災の犠牲者に黙とうをし、新聞を読む。世界情勢の記事は相変わらず殺伐とし、日本も突然の衆議院議員選挙で関係者の大慌ての様子が載っていた。



孫の共通テストの日でもあり、何となく落ち着かぬ心寒い朝を迎えたが、今日は楽しみにしていた「牧野ヶ池緑地自然散策会」が催される日で、気持ちを切り替え出掛けることにした。

1月にしては暖かく、穏やかな日差しの中散策会が始まった。参加者は去年の倍以上の47名であった。20数名の「バードウォッチングの会」も同じ場所で集合しており、賑やかであった。

まずは、実、種子の方から紹介。赤い実は冬には特に目立つ。

センリョウ、マンリョウとソヨゴの実、そして、しもやけに効くサネカズラ(葉や茎からの粘液は、整髪料に用いたので別名ビナンカズラ:美男葛とも言う)を見つけた。

逆に目立たない白い実を付けたシロシキブ(ムラサキシキブの白実品種)を見つけた。

黄色い実は、イヌビワ、ヘクソカズラ、そして珍しいカラスウリである。

カラスウリの実はもう少し赤いのであるが、冬になると黄色っぽくなるようだ。この果実の液も、しもやけに効く。最近、温暖化や防寒設備、用具の発達で殆ど「しもやけ」の病名を聞いたことがない。幼少の頃の懐かしい言葉である。

クスノキの下に黒い実が沢山落ちていた。上を見ると実がまだ付いていた。近くで、鳥が飛んでいた。恐らくこのクスノキの実が好物なのだろう。

ユリノキとトウカエデの種子が付いた樹木を撮影した。木の下に落ちている種子も観察した。

ところで、この散策会の目玉である牧ノ池の水鳥であるが、令和2年には池のあちこちに色んな種類の水鳥が群れをなしていたし、去年は少なかったものの、カワウの日向ぼっこやカルガモの群れなどを見ることができたのに、今年は何故か殆どいない。

肉眼では詳しく見えない向こう岸に数羽の水鳥がいた。カメラを望遠にしてやっとマガモの雄雌とオオバンを撮った。その他、ホシハジロ、ヨシガモ(確認はできない。マガモかも?)と思われる鳥を撮影した。

帰り道で、虫に食われて葉脈だけ残った葉を見つけた。こんな食べ方をする虫は何だろうかと、帰ってから調べてみた。アメリカシロヒトリという虫とのこと。

何となく、アメリカの「赤帽子ヒトリ」を想像してしまった。

世の中がこんな姿には、なってほしくはない。

厳しい冬の環境でも立派に花咲くサザンカに願いを込め、散策会の報告とする。



センリョウ



マンリョウ



ソヨゴ



サネカズラ



シロシキブ



ヘクソカズ



イヌビワ



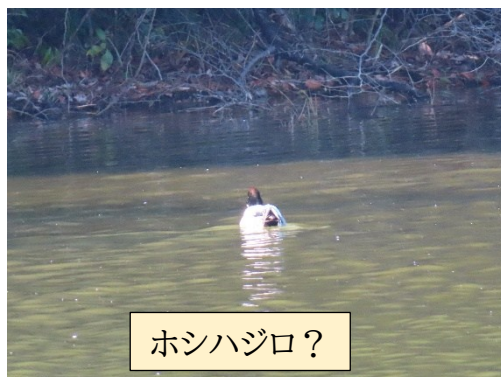
カラスウリ



クスノキの実



マガモ雄雌・オオバン



ホシハジロ?



ヨシガモ?



ユリノキ



トウカエデ



トウカエデの種子



葉脈だけ残った葉



アメリカシロヒトリ



サザンカ